

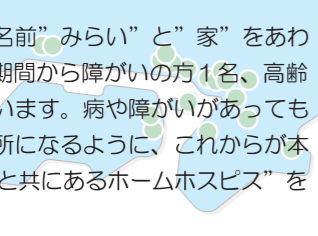


新しく開設されたホームホスピスをご紹介します。

ホームホスピス miraie (熊本市)

訪問介護事業所の立上げから3年半の間を経て、令和3年9月に「ホームホスピス miraie」を開設しました。

当法人は訪問介護事業所を通じて、障がい者の方の支援も多く、支援を通してその方達が安心して未来を見つめられるよう、法人の名前“みらい”と“家”をあわせて“miraie”としました。準備期間から障がいの方1名、高齢者の方3名の生活がスタートしています。病や障がいがあっても地域で安心して暮らしていける場所になるように、これからが本場のスタートとなりますが、“地域と共にあるホームホスピス”をスタッフ一同つくっていきます。



ホームホスピスくらの家土崎港 (秋田市)

本年5月、念願だった2軒目のホームホスピスが、秋田市の海の玄関、土崎港にできました。2軒目の開設にあたっては紆余曲折ありましたが、新築することで方向性を出し、ようやくこぎつけたというところです。あくまでも、「家」であることにこだわり、効率性や機能性ではなく、大家族が共に暮らすことをイメージして作りました。オープンキッチンと広いリビングの周りに部屋を7つ配置しています。今月7人目の入居者さんが入り、とも暮らしを始めています。



ホームホスピスセ・ラ・ヴィ! (東京都文京区)

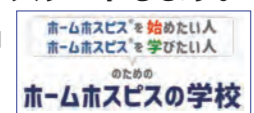
6月半ばにオープンし、8月1日に最初の住人の方を迎えてあっという間に1か月が経ちます。2年前、神戸なごみの家で住人の方が、お1人の状態から研修をさせていただいた時の経験が日々生きており、感謝でいっぱいです。セラヴィでは、スタッフが各々得意分野で本領を発揮しており、自然に良いチームが形作られています。これからも、スタッフ間や住人の皆様とのコミュニケーションを大切に、どんな時も分かち合えるホームホスピスであり続けたいと思います。



Information

1 「ホームホスピスの学校」第2期がスタートします。

今年から始まった「ホームホスピスの学校」第2期が、10月16日の開校式を皮切りにスタートします。現時点(2021年9月末)で、「つくるコース」のお申し込みが9組、「まなぶコース」のお申し込みが7人となっています。「ホームホスピスの学校」は、年に2回の開催を予定しており、来年は、5月と10月の開催を予定しています。



2 ホームホスピス全国合同研修会 in 宮崎を開催します。

第10回を迎えるホームホスピス全国合同研修会は、宮崎市の会場とオンラインによるハイブリッド形式での開催となります。この研修会は、ホームホスピスに関心のある皆さま、これからの介護社会に関心のある皆さま、ホームホスピスの運営者およびスタッフの皆さまにぜひ参加していただきたいセミナーイベントです。テーマ:「つながりを編み出す」期日:2021年11月20日(土)~11月21日(日)会場:MRTmicc ダイヤモンドホール(宮崎市)参加費:一般5,000円定員:300名(会場100名まで)講師:野崎伸一氏・大月敏雄氏・奥田知志氏・吉村学氏・副島賢和氏・市橋亮一氏・木戸恵子氏・堤育子氏

事務局便り

オンライン会議や研修が主流となる中、会員の皆様やホームホスピスに興味を持った方、またホームホスピスを知らない方とどう繋がり続けるか、ホームホスピスを地域の皆さんへどうやって知っていただくかを日々考えるようになりました。研修会での交流や見学ができないため、オンラインミーティングを取り入れたり、SNSを使って活動をいち早く発信。また、ホームホスピスのことを分かりやすく紹介するためのパンフレットも、イラストレーター津田かおりさんの4コマ漫画やほっこりするイラストなどを使って、制作しました。このパンフレットは、新規開設やイベントの際の広報などにもご活用いただいております。大変好評です。



【事務局連絡先】〒880-0913 宮崎市恒久2丁目19-6 TEL:0985-65-8087 FAX:0985-53-6054 Mail: info@homehospice-jp.org HP: https://homehospice-jp.org/

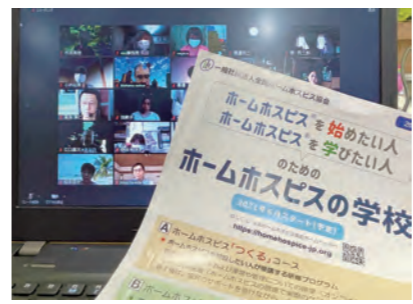


ホームホスピスの種が、たんぽぽの綿毛のように、ふわりふわりとあちらこちらに広がって、どこにでもしっかりと根を張り育つように、このニュースレターは「たんぽぽ」と名付けられました。

ホームホスピス®は、病いや障害があっても最期までその人らしく暮らせる「家」です。

NEWS ホームホスピスの学校がはじまりました!

今期のはじめ(2020年10月~)から計画を練り、準備を重ねてきた「ホームホスピスの学校」の第1期が、今年の6月よりスタートしました。これは、当協会が独自に企画した育成プログラム(経緯は右欄の理事長メッセージをご覧ください。)で、「つくるコース」はチーム受講、「まなぶコース」は個人受講とし、第1期は、「つくるコース」を8チーム、「まなぶコース」を11名の方が受講されました。コロナ禍で、実習のスケジュールもそれぞれの実習先で調整しながらですが、第2期も10月中旬から始まります。詳しくは、裏面の3ページにレポートしていますので、ご覧ください。



チャラシと交流ミーティングの画面

次のステージへ一歩

コロナ禍によって社会生活が制限され、1年半が過ぎようとしています。全国のホームホスピスでは、コロナ禍でも「つながり」を見失わないよう、住人の穏やかな日常を保つため感染対策に努める日々が続いていることと思います。全国ホームホスピス協会は、2015年8月に結成されて早6年が経過しました。ちょうど小学校卒業の期間と考え、協会も次のステージに歩みを進める時期とも言えます。全国合同研修会をはじめ、ホームホスピス実践者育成塾は、その時々での課題を解決するべく、充実した講座を作り出してきました。しかし、この1年半は一堂に集まった開催ができず、ほぼオンラインでの研修となりました。それでもその利点を活かして、遠隔地であってもつながりをつくる工夫をし、本来なら日常の業務から研修を受けられないでいた方々にも、学びの機会を作ることができました。また、今年3月に「日本財団ホームホスピス実践リーダー養成研修プログラム」が終了したことを機に、協会では「ホームホスピスの学校」を開講し、「つくる」コースと「まなぶ」コースを設けました。この学校の特徴は、座学が全てオンラインなので、全国どこからでも参加できること、また一緒に立ちあげたい仲間も授業を共有できるために、共に組織を作り上げていくときに心強いことです。約1カ月間の実習も、近隣の認定ホームホスピスを選択することができます。

理事長 市原 美穂



ホームホスピスのムーブメントが芽生えて約17年が経ち、その間、医療的ケアの必要な子どもとその家族が増え、その方々の生活を支える支援が乏しいことが課題となっています。高齢者のみの支援にとどまらず、制度を超えて仕組み作りをしてきたホームホスピスが、この世に産声を上げてから人生の幕を閉じるその時まで、精いっぱい生き生きする場としてケアを提供できるのではないかと期待され、全国でその試みが始まっています。

コラム ふわり

「ホームホスピスと恋に落ちて」



理事 高橋 紘士

英語でもフランス語でも「恋に落ちる」という表現がある。fall in love with... 英語は、tomber amoureux avec... が原語である。「の with や avec の後に人の名前がこなくて良いらしい。家内の知りあいのフランス人は、「蕎麦」に tomber amour amoureux だった由。その意味ではホームホスピスと恋に落ちた人が沢山いて、その結果、ホームホスピスを聞くに至った方たちが全国至る所に現れたのでしよう。不肖私は、自らがホームホスピスを開設する力はないけれども応援団を自任して、長い付き合いが始まった。私の住んでいる文京区でも「Castla vie」(これが人生さ!)という名前で開催されたことの方が喜んでいる。ホームホスピスに恋する理由がなんだろうか。はじめて宮崎を訪れて市原さんに連れられて、空師にあった第一号のホームホスピスを拝見し、その静謐な空気とあたりまえに暮らし入居者の方々に会うことができた。当時務めていた大学に市原さんをお呼びしてシンポジウムを開催したとき、同席してくださった著名な研究者の方が市原さんの報告された事例を聞いて「これは奇跡だ」と仰った。私はいや、これは奇跡でもなんでもなくて、あたりまえの事なのだ。日常のなかに看取りがあるのだ。と密かに思ったものだ。これが、ホームホスピスを訪れて恋に落ちる理由なのではないですか。これまで、病院という特別な場所で、まさに今コロナ禍では、孤独のまま死を迎えざるを得ない方々がいる施設でも同様かもしれない。しかし、ホームホスピスでは、様々な工夫で日々の関係が途切れることのない看取りが行える場所になっている。そしてあたりまえのように、世代の交代が起こり、亡くなられた方の魂は孫、曾孫にも伝えられる。「亡き者の心」というキーワードは、どういう意味でもある。ホームホスピスにはこれに付帯して日常の居場所である「暮らしの保健室」が共に造られ、宮崎では、医療的ケア児のためのHALLEたちが開設されることになった。ホームホスピスの理念が全世代に広がることになることに力強く思う。

ホームホスピスの学校

ホームホスピスを始めたい人
ホームホスピスを学びたい人

2021年6月12日より、「ホームホスピスを始めたい人」「ホームホスピスを学びたい人」のための「ホームホスピスの学校」第1期が開校しました。

企画段階では、いったいどれだけの人が関心を持って受講していただけるのだろうと不安もありましたが、いざ応募を始めてみると、たくさんの方からのお問い合わせと、お申し込みがあり、最終的には、「つくるコース」を8組14名、「まなぶコース」を11名の方が受講していただきました。

この研修プログラムは、オンライン授業として、理念やケアの基本を学ぶ「座学1」と、運営や実践的な知識を学ぶ「座学2」があり、全員参加のオンライン交流ミーティングも設け組み込みました。また「つくるコース」の方は、座学の修了後、トータル20日間の現場実習を受講することとなります。

現場実習先は、認定ホームホスピスで受講生の希望と受け入れ先の状況に応じて、時期などを調整することとしています。座学は、週に2回のペースですので、実習期間の調整がスムーズにできれば、約3ヶ月間のプログラムですが、コロナ禍の今はPCR検査を受けていただきながら、細かい日程調整で実習に取り組んでいただいています。

10月16日からは、第2期が始まります。ホームホスピスの仲間が着実に広がっていく手応えを感じています。

● 受講生からのコメント

大阪府 倉岡 美奈さん

理念とケアについての事例を通して私が知りたかったことは、ホームホスピスに移り住むことによって心身機能が改善され、余命が伸びるといふ奇跡がなぜ起こるのかということでした。講師に質問すると、それは奇跡ではなく、その方の日常のリズムを取り戻し、生活環境を整え、好きなものを用意し、見つめ、話しかけ、触れるという個別ケアを行っていく中で起こってくる回復であるというのが答えでした。

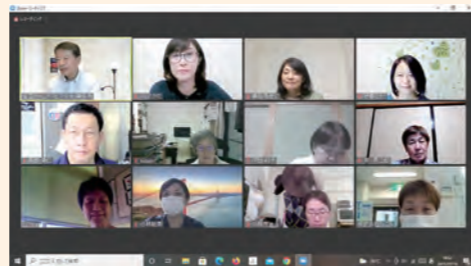
これから私たちがはじめるホームホスピスでも、迎え入れるお一人一人に、この理念に基づくケアをあてはめて行っていきたいと思っています。



倉岡さんのチーム



座学のひとコマ（金居理事の講座）



オンライン交流ミーティング



「われもこう」で実習された中願寺さん

コロナ対策のご支援



メットライフ生命様より追加支援をいただきました！

日本財団様を通じて、メットライフ財団・メットライフ生命様より、災害復興の追加支援をいただきました。前期に、既に各ホームホスピス1軒あたり50万円の支援金をいただいておりましたが、コロナ禍での移動自粛のため、事務局が予定していた件数の現地監査に伺うことができませんでした。そこで、2回目の緊急事態宣言が発令された今年1月に、その費用を使って、各ホームホスピスに追加支援として使い捨てグローブとエプロンを送付しました。

必要な衛生用品などが品薄になっている時期だったこともあり、思いがけない支援に大変驚いたという声を多くいただきました。その後、すぐに活用したというご報告や緊急時のために備蓄したという報告もいただきました。

また、その後メットライフ生命様からは、会社のCSR活動として、ホームホスピスに対してできるボランティア活動はないかというご相談がありました。

コロナ禍で、対面ではない支援はどのようなものがあるのか話し合い、メットライフ生命の担当者様から様々な案をいただきながら現場スタッフに相談したところ、「使い古しのタオルで作った雑巾や足拭きマットが嬉しい」との意見がありました。その結果、社長自ら手縫いをされたものまで多くの雑巾と足拭きマットが届きました。現在も掃除や入浴介助の際など活用させていただいています。

社員の皆様には、この一年の取り組みを通してホームホスピスに大変関心を持っていただきました。現在、今後のCSR活動についてもご相談をいただいております。まずはオンラインによる聞き書きボランティアを計画中です。今はオンラインや非対面での関わりを続け、コロナ禍が落ち着いたらホームホスピスでの直接ボランティア活動にも伺いたいとのこと。このような継続したご支援には、本当にありがたい気持ちでいっぱいです。



手作りの雑巾やマットがたくさん！



オンラインによる監査

認定ホームホスピスになって

ホームホスピス かぞくのいえ（福島市）

令和2年10月、コロナ禍の中、オンラインでのレビューとなりました。対面とも違い、また違った緊張感の中レビューに臨みました。

レビューでは、ホームホスピスの基準をもとに項目一つ一つ確認する中で、「ホームホスピスの基準」の内容の意味の取り違えや自分たちの考えた評価についてご指摘を頂き、考え方の修正や課題への取り組み方など多くのアドバイスを頂き、とても良い機会となりました。

今回のレビューを振り返り、良い評価を頂いたところは充実させながら、ご指摘を受けた課題は一つ一つ確認と改善を行い、住人やご家族（親族）・地域と一緒に、ホームでの生活をともに過ごして行きたいと思っています。

NPO法人ホスピスふくしま 代表 中村 博幸



ホームホスピス 里の家（東京都中野区）

「中野にホームホスピスを創りたい」と夢を抱いて9年、「里の家」を開業して3年半が過ぎました。

この度、半年前にレビューを受け、お陰様で「認定ホームホスピス」の承認をいただきました。レビューを受審することにより自分たちのケアや運営の課題がより明確になり、毎日、悪戦苦闘しています。里の家は一人ひとりを大切に迎える居場所です。住人さん、家族、スタッフ、そして医師、看護師、地域の方々も、ご縁がありここに集う者たちの想いを繋ぎ、互いに支え合い、小さなHAPPYを生み出す場でありたいと思います。

NPO法人なかの里を紡ぐ会 代表 富田 真紀子



“育成塾” は今年も新しい企画で好評でした！

今回で5回目となった「ホームホスピス実践者育成塾」は、当初ハイブリッド形式を予定していましたが、オンライン配信のみに変更し、3日間の日程で開催しました。

それに伴って、講師の方々もそれぞれの場所からの配信テストを行いました。ZOOMウェビナーは、講師の方々にとって、参加者の反応や雰囲気把握できない状態ですが、参加者アンケートから満足度の高い結果が出ており、講師の方々の対応力には敬服いたしました。

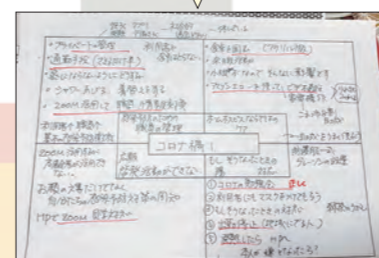
日程が合わない講師の講座は、場所を借りて事前収録、講師自身で編集した動画とZOOM録画で編集を行い準備をしました。

また、今回はオンラインワークショップにも挑戦しました。前回の課題とした育成塾での「交流」をどう実現するか…講師の奥村さんと時間をかけ、テストを繰り返し流れを作り上げました。ZOOMブレイクアウトルームでテーマごとに分かれ、各グループ内で意見を出し合い、まとめたものを元にクラウドワークスも作りました。完成したものを下記に記載していますのでご覧ください。

今回はハイブリッド形式で、皆様からのアンケート等を参考に、さらに実り多き育成塾の開催を目指したいと思います。

参加者 ホームホスピス関係者、ホームホスピスの学校受講生、一般視聴者（人数100名）

ワークショップの意見集約シート



クラウドワークス
(多く出たワードほど文字が大きい)



事前収録した「古美術介護」講座
(岡田 慎一郎 先生)



YouTubeも活用した実演解説
(榊原 千秋 先生)



ハイブリッドで行った九州支部研修会の様子